

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成24年1月5日(2012.1.5)

【公開番号】特開2010-76742(P2010-76742A)

【公開日】平成22年4月8日(2010.4.8)

【年通号数】公開・登録公報2010-014

【出願番号】特願2009-85048(P2009-85048)

【国際特許分類】

B 6 2 L 3/08 (2006.01)

B 6 2 L 3/02 (2006.01)

B 6 0 T 11/06 (2006.01)

B 6 0 T 11/16 (2006.01)

【F I】

B 6 2 L 3/08

B 6 2 L 3/02 D

B 6 0 T 11/06

B 6 0 T 11/16 Z

【手続補正書】

【提出日】平成23年11月14日(2011.11.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

ブレーキロック手段59は、ブレーキロックを作動させるブレーキロック操作子(不図示)と、このブレーキロック操作子の一端114aが連結され、図5に示されたイコライザ75のブレーキロック連結部87に他端114bが連結されるブレーキロック操作力伝達手段114とを備える。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

図3～図7に示されたように、マスタシリンダユニット70は、機体となるシリンダブロック71と、このシリンダブロック71の上下方向に設けられた油圧マスタシリンダ72と、この油圧マスタシリンダ72のピストン73を駆動するレバー機構(第1ブレーキ操作力伝達手段)79と、このレバー機構79に連結され、連動ブレーキ操作子53(図2参照)の操作に応じて油圧ブレーキ51及び機械ブレーキ52をそれぞれ作動することを可能とするイコライザ75と、シリンダブロック71とレバー機構79との間に介在させ、レバー機構79の動きを遅らせるとともに、レバー機構79を初期状態に復帰させるディレイスプリング77とからなる。なお、油圧マスタシリンダ72は、スライド可能なピストン73を備える。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】**【0 0 4 2】**

図11において、図2に示された連動ブレーキ操作子53を操作すると、連動ブレーキ操作力伝達手段57が矢印b1の如く引かれ、イコライザ75が油圧ブレーキ連結部84を中心に矢印b2の如く回転し、機械ブレーキ操作力伝達手段58が矢印b3の如く引かれ、機械ブレーキ52(図2参照)が弱いブレーキ状態に移行する。

【手続補正4】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0 0 4 4****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0 0 4 4】**

図12において、図2に示された連動ブレーキ操作子53をさらに操作すると、連動ブレーキ操作力伝達手段57が矢印b4の如く引かれ、イコライザ75が油圧ブレーキ連結部84を中心に矢印b5の如く回転し、機械ブレーキ操作力伝達手段58が矢印b6の如く引かれ、機械ブレーキ52が強いブレーキ状態に移行する。